

② 入試区分

人間生活学研究科博士前期課程（Ⅱ期）

③ 出題科目

専門科目

④ 出題の意図

心理臨床における重要かつ基本的な事項の一つである心理的アセスメントの目的と留意事項について、①これを確実に理解し、心理臨床に生かせる知識として身に付けているか、②論理的に文章を組み立てることができるかを確認することを意図して出題した。

受験番号	氏 名

2026 年度Ⅱ期 人間生活学研究科心理学専攻（臨床心理学コース）博士前期課程
入 学 試 験 問 題 （ 専 門 科 目 ）

（4 枚中 1 枚目）

※問題は 2 問あります。2 問とも解答して下さい。（解答用紙を含め、全部で 4 枚あります。）

問題 1. 次の文章の①～⑮の空欄に適切な語句または人名を、2 枚目の語句選択用リストから選んで解答してください。ただし、一度選択した語句は他の空欄には使えません。

- （1）発達障害者支援法において、発達障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものを（①）といい、発達障害者の支援はこれの除去に資することを旨として行われなければならない、と定められている。
- （2）大切な人との死別など、さまざまな「喪失」によって生じる深い悲しみに寄り添い、悲嘆を乗り越えて新たな希望を持って生きることを支援するといったケアを（②）という。
- （3）数値化できない人々の感情、経験、価値観、心理といった質的なデータを収集・分析し、社会現象の背景にある人間の心理や行動を深く理解する研究手法を（③）という。
- （4）非行や犯罪をした結果、共同体や社会から排斥され、居場所がなくなり、再犯するという悪循環に注目した犯罪理論は（④）という。
- （5）身調べと呼ばれた自己洞察法をもとにして創始した日本発祥の心理療法とは（⑤）である。
- （6）2 要因計画の分散分析の結果、（⑥）が見られた場合は、各要因の要素を分解し、（⑦）の分析を行う。
- （7）心理専門職が自己課題を発見するための方法として、経験豊富な臨床家との対話を通じ、自らの援助実践を確認・修正する機会を得る（⑧）のほか、担当者が報告する援助実践に対し、専門家や援助に関わる人がその実践について検討を行う（⑨）への参加などがあげられる。
- （8）限局性学習症のアセスメントに用いられる、対象児の学習状況を理解している教師等が評定するツールを（⑩）という。
- （9）患者本人と家族が医療者などと、患者自身の意思決定能力が低下する場合に備えて、事前に終末期医療も含めた今後の医療方針について話し合うことや、本人の意思決定ができなくなった場合の代理人を決めておくプロセスのことを（⑪）という。
- （10）ワイナー（Weiner, B.）の原因帰属理論では、帰属因の次元として、統制の位置、（⑫）、統制可能性が挙げられている。

受験番号	氏 名

(4 枚中 2 枚目)

- (11) 子供に対する鏡像認知課題（ルージュ課題）を通して把握される心理的特質は（⑬）である。
- (12) 印象形成に関する研究によると、他者の印象の全体を方向づける性格特性とそのような影響力が低い性格特性とがあり、前者を（⑭）という。
- (13) 記憶のエラーを説明する理論として、以前の学習によって獲得された記憶によって新しい学習における記憶が妨害される現象を（⑮）という。

【語句選択用リスト】

LDI-R	多変量解析	グループ体験	アドバンス・ケア・プランニング	アドヒアランス	安定性
一般特性	インターベンション	エンジェルプラン	置き換え	スーパービジョン	自己意識
グリーフ・ケア	検索失敗説	交互作用	日常的障壁	自己愛	緊張理論
				社会的障壁	信頼性
自己概念	自然崩壊説	質的研究	周辺特性	順向干渉	総合的障壁
				妥当性	リリーフ・ケア
単純主効果	中心特性	動作療法	統制理論	等分散性	内観療法
				ケースカンファレンス	
ビッグファイブ	標準読み書きスクリーニング検査	ブリーフ・ケア	ラベリング理論	カウンセリング	
量的研究	主効果	森田療法	Vineland-II		

受験番号	氏 名

2026 年度Ⅱ期 人間生活学研究科心理学専攻（臨床心理学コース）博士前期課程
入 学 試 験 問 題 （ 専 門 科 目 ）

（4 枚中 1 枚目）

※問題は 2 問あります。2 問とも解答して下さい。（解答用紙を含め、全部で 4 枚あります。）

問題 1. 次の文章の①～⑮の空欄に適切な語句または人名を、2 枚目の語句選択用リストから選んで解答してください。ただし、一度選択した語句は他の空欄には使えません。

- （1）発達障害者支援法において、発達障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものを（① **社会的障壁**）といい、発達障害者の支援はこれの除去に資することを旨として行われなければならない、と定められている。
- （2）大切な人との死別など、さまざまな「喪失」によって生じる深い悲しみに寄り添い、悲嘆を乗り越えて新たな希望を持って生きることを支援するといったケアを（② **グリーフ・ケア**）という。
- （3）数値化できない人々の感情、経験、価値観、心理といった質的なデータを収集・分析し、社会現象の背景にある人間の心理や行動を深く理解する研究手法を（③ **質的研究**）という。
- （4）非行や犯罪をした結果、共同体や社会から排斥され、居場所がなくなり、再犯するという悪循環に注目した犯罪理論は（④ **ラベリング理論**）という。
- （5）身調べと呼ばれた自己洞察法をもとにして創始した日本発祥の心理療法とは（⑤ **内観療法**）である。
- （6）2 要因計画の分散分析の結果、（⑥ **交互作用**）が見られた場合は、各要因の要素を分解し、（⑦ **単純主効果**）の分析を行う。
- （7）心理専門職が自己課題を発見するための方法として、経験豊富な臨床家との対話を通じ、自らの援助実践を確認・修正する機会を得る（⑧ **スーパービジョン**）のほか、担当者が報告する援助実践に対し、専門家や援助に関わる人がその実践について検討を行う（⑨ **ケースカンファレンス**）への参加などがあげられる。
- （8）限局性学習症のアセスメントに用いられる、対象児の学習状況を理解している教師等が評定するツールを（⑩ **LDI-R**）という。
- （9）患者本人と家族が医療者などと、患者自身の意思決定能力が低下する場合に備えて、事前に終末期医療も含めた今後の医療方針について話し合うことや、本人の意思決定ができなくなった場合の代理人を決めておくプロセスのことを（⑪ **アドバンス・ケア・プランニング**）という。
- （10）ワイナー（Weiner, B.）の原因帰属理論では、帰属因の次元として、統制の位置、（⑫ **安定性**）、統制可能性が挙げられている。

受験番号	氏 名

(4 枚中 2 枚目)

- (11) 子供に対する鏡像認知課題（ルージュ課題）を通して把握される心理的特質は（⑬ 自己意識）である。
- (12) 印象形成に関する研究によると、他者の印象の全体を方向づける性格特性とそのような影響力が低い性格特性とがあり、前者を（⑭ 中心特性）という。
- (13) 記憶のエラーを説明する理論として、以前の学習によって獲得された記憶によって新しい学習における記憶が妨害される現象を（⑮ 順向干渉）という。

【語句選択用リスト】

LDI-R	多変量解析	グループ体験	アドバンス・ケア・プランニング	アドヒアランス	安定性
一般特性	インターベンション	エンジェルプラン	置き換え	スーパービジョン	自己意識
グリーフ・ケア	検索失敗説	交互作用	日常的障壁	自己愛	緊張理論
自己概念	自然崩壊説	質的研究	周辺特性	順向干渉	総合的障壁
単純主効果	中心特性	動作療法	統制理論	等分散性	内観療法
ビッグファイブ	標準読み書きスクリーニング検査	ブリーフ・ケア	ラベリング理論	カウンセリング	
量的研究	主効果	森田療法	Vineland-II		

記述問題

心理的アセスメントの目的を明らかにした上で、その目的を達成するために留意すべき事項について説明しなさい。

解答のポイント

・心理的アセスメントの目的について、次の事項が記載されていること

- ① 支援を要する事項（主訴）とその背景を明らかにする
- ② 心理的援助の方針を決定し、効果的支援を実施する
- ③ 援助過程とその効果を評価する
- ④ 終結の判断を行う
- ⑤ 心理的アセスメントの定義

・心理的アセスメントの目的を達成するために留意すべき事項について、次の事項が記載されていること

- ① 臨床心理学的視点（見立てること）が重要であること
 - ア 全人的理解（現在の心理的問題や症状にのみ捉われないクライアント理解）
 - イ 問題なく保たれている心理機能への着眼
 - ウ 成長・発達する存在であること及びその可能性へのまなざし
 - エ 社会場面における対人関係の中で生きる主体として捉えること
 - オ 心理的問題による生活機能への影響の程度を評価すること（国際生活機能分類（ICF）の視点の適用）
- ② 生物・心理・社会モデルに基づくアセスメントが重要であること
 - ア 生物・心理・社会についての言及があること
 - イ 生物→心理→社会との階層性（アセスメントの優先順位）があること
 - ウ これら3つの事項には相互作用が生じること
- ③ 個別性を尊重すること（エビデンスにとらわれすぎない姿勢の重要性）
 - ア エビデンス・ベイスド・アプローチ（客観的な診断基準等に基づきアセスメントを行うアプローチ）とナラティブ・ベイスド・アプローチ（ある出来事についての記述を意味ある連関によりつなぎあわせること（クライアントによる出来事の意味付けを重視するアプローチ）により個別性に寄り添うアプローチ）両者を包含したアプローチとすること（個別性に寄り添いつつ客観的な視点を失わないこと）
 - イ 共感し理解する姿勢に基づいて得られた情報に基づきクライアントを理解すること（援助する者が援助過程における自らの姿勢によって得た情報も加味した上でアセスメントを行うこと）